

研修報告書 No. 7

所 属： 昭和大学病院

研修先： 高北病院

私は2024年6月に1か月間、佐川町立高北国民健康保険病院で地域医療研修を行いましたので報告します

東京出身の私は、これまで四国では愛媛の道後温泉やしまなみ街道などしか訪れたことがなく、高知県には初めて訪れました。昭和大学から高北病院へ地域医療研修に行く人は珍しく、期待と不安を抱きながら高知龍馬空港に到着しました。高知医療再生機構の職員の方と合流し、昼食をとっていざ高北病院へ電車で向かいました。医療スタッフの方や事務の方々は温かく迎えてくださり、毎日スケジュールが決まっており、それに合わせて安心して研修を行うことができました。

訪問診療の研修は、普段大学病院で臨床研修をしている私にとっては学生時代の実習以来の経験でした。在宅酸素療法をしながら、夫婦で暮らし支え合って生活している方や、段差の多い家で暮らし、ほぼ寝たきりで訪問サービスを使って、独居で暮らされている方まで様々な方がいました。入院していなくても、在宅で地域住民の方の健康を支える姿に魅力を感じました。

検査室の研修では、主に輸血前に行う血液型の決定や交差適合試験について学んだり、実際の検体を用いて、尿沈渣やグラム染色後の標本などの観察をしました。学生時代に実習で行って以来、自分自身で検査は行っていなかったため、新鮮な経験となりました。また、検査技師さんに教えてもらいながら、心臓や腹部のエコーを実際に患者さんに当てる機会がありました。将来内科へ進もうと考えているため、将来へつながる貴重な経験を積むことができました。

外来や病棟研修では、担当の先生と一緒に診察を行ったり、治療を考えたりしました。主に80歳以上の患者さんが多く、地域社会の高齢化を肌で感じました。印象に残っているのは、米農家の方で収穫のない時期には仕事がなく、あまり運動をしないことでHbA1cが悪化するという患者さんがいたことで、普段の生活から検査値の変化を追うことの重要性を学びました。

また、以前に外来に通院していた患者さんの死体検案があり、監察医制度のない高知県では病院で医師が行うため、見学する機会がありました。普段臨床研修している病院では死体検案をする機会はないため、貴重な経験となりました。

町の健康福祉センターで地域住民の方に対して、健康講座を行う機会がありました。20人程度の住民の方が集まり、10分程度の発表と質問対応を行いました。普段、住民の皆さんが健康についてどのように考えているか、または素朴な疑問を聞くことができました。今後

患者さんに説明するときどのようなことを説明すれば納得してもらえるのか、参考になりました。

病院以外の生活では、梅雨の時期でしたが、様々な観光地に行くことができました。スタッフの方に誘われて BBQ をしたり、事務の方の案内で久礼大正町市場や四国カルスト、梶原町立図書館などへ訪れました。そのほかには四万十川で SUP をしたり、仁淀川の清流を訪れたりすることができました。大自然に囲まれた生活はこれまでになく、心が浄化された楽しい思い出となりました。

最後になりますが、お世話になりました院長先生をはじめ、医療スタッフや事務の方々には貴重な経験をさせていただき、非常に感謝しております。1 か月間、ありがとうございました。また魅力的な高知県に遊びに来たいと思います。